

第3章 道 徳

第1 本資料の活用について

1 作成の基本的な考え方

本資料は、「学習指導要領」及び「埼玉県中学校教育課程編成要領」、「埼玉県中学校教育課程指導資料」に基づき、道徳教育の趣旨や内容が評価の観点から一層生かされるよう作成したものである。特に各学校においては、生徒の発達段階に応じて適切に道徳性の発達がうながされたり、道徳教育の充実が一層図られたりするよう、生徒の道徳性の把握や指導計画等の改善に努めることが大切であり、そのための評価の在り方については全教師で取り組む必要がある。

このようなことから、本資料の作成に当たっては、各学校が、道徳教育の一層の充実を通し、豊かな道徳性を育成できるよう次の観点到に留意し、編集した。

- (1) 道徳教育における評価の意義について明らかにする。
- (2) 道徳の時間を要として、生徒の道徳性を育成するための評価例や指導方法の評価の観点例を示す。
- (3) 教育活動全体を通じて行われる道徳教育の評価を工夫するために指導計画等の評価の手順や観点例を示すとともに、道徳教育推進教師の視点からの評価例を示す。
- (4) 中学校生徒指導要録における「行動の記録」についての評価例を示す。

2 取り上げた内容

- (1) 本資料の構成

第2 道徳教育における評価の意義
第3 生徒の道徳性の理解と評価
1 評価の観点 2 評価の方法 3 道徳教育の評価 4 道徳の時間の指導と評価
第4 道徳教育の充実を図るための評価
1 指導計画の評価 2 家庭、地域社会との連携についての評価
第5 中学校生徒指導要録「行動の記録」の評価

- (2) 概要と要旨

ア 道徳教育における評価の意義

道徳教育においての評価は各教科等の評価とは性格を異にし、全教師による正しい理解と評価に当たっての基本的な姿勢が特に重要になる。そこで、教師の基本姿勢と道徳教育における評価の在り方等について示した。

イ 生徒の道徳性の理解と評価

生徒の道徳性や道徳的実践力等の評価は、学校のエ育活動全体を通じて行われる道徳教育やその要となる道徳の時間の重要な役割であり、全教師が基本的に理解していなければならないものである。このことから、できるだけ平易に解説し、共通理解しやすいようにした。

ウ 道徳教育の充実を図るための評価

道徳教育においては、その指導が意図的、計画的に行われるよう校長の方針の下、道徳教育推進教師を中心に、諸計画の作成と推進体制の確立を図る必要がある。このことについての事例を取り上げ、評価例を示した。

エ 中学校生徒指導要録「行動の記録」の評価

「行動の記録」の評価項目は道徳教育の指導内容と特に関連が深い。したがって、その評価は、学校教育全体を通じて行う道徳教育の評価に関連させて行うことが大切であり、そのための評価の工夫と教師の心構えについて示した。

3 実践化への配慮事項

- (1) 実践例の活用に当たっては、道徳教育における評価についての理解を深め、学校の実態に即した評価を創意工夫する。
- (2) 適切な評価は、教師と生徒、生徒同士の人間関係によるところが大きい。生徒のよりよく生きようとする願いに正対する姿勢を大切にしたい。
- (3) 道徳性の理解に関する資料は、生徒のプライバシーにかかわる内容が含まれることがある。資料収集の仕方や資料活用等には十分に配慮する。

第2 道德教育における学習評価の意義

学習指導要領第1章総則第4「指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項」の2の(2)に「生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を評価し、指導の改善を行い学習意欲の向上に生かすようにすること。」と記されている。これに基づき、道德教育における評価については、学習指導要領第3章道德第3「指導計画の作成と内容の取扱い」の「生徒の道德性については、常にその実態を把握して指導に生かすよう努める必要がある。ただし、道德の時間に関して数値などによる評価は行わないものとする。」を十分に踏まえることが重要である。

また、道德教育においては、従来から、「生徒の道德性の評価」と「指導の改善のための評価」の二つの側面からの評価が行われてきたが、「生徒の道德性の評価」に関しては、ややもすると消極的な状況が見受けられた。

今後は、生徒一人一人のよい点や進歩の状況を的確に把握し、生徒の道德性を積極的に評価するよう努めることが大切である。

1 教師の基本姿勢

教師は、「人間は、本来、人間としてよりよく生きたいという願いをもっている。」という確固たる人間観をもって道德教育にあたり、生徒の道德性を評価する姿勢をもつことが重要である。

生徒の道德性については、道德教育の目標や内容に照らして、生徒一人一人がどの程度成長したかを明らかにすることが大切である。学習指導要領解説道德編に「常に生徒の立場に立って生徒を受容し尊重する共感的な生徒理解を心掛けるとともに、生徒の道德的な成長の姿を温かく見守り、よさを認め励ましていく教師の姿勢が大切である。」と記されている。このことを十分に理解し、以下の諸点に留意する。

- (1) 教師は、道德的に完成された人格者として生徒に臨むのではなく、生徒をよりよく受容し、理解する態度及び生徒と共によりよく生きる道を求めていく姿を示すこと。
- (2) 生徒との信頼関係や生徒相互の望ましい人間関係の醸成に努め、常に、生徒に対して人間的関心と教育愛をもつこと。
- (3) 生徒は皆、よりよく生きる力をもっているという信念と、生徒の成長を温かく見守る姿勢をもつこと。
- (4) 生徒一人一人のよい点や進歩の状況を多面的・多角的に捉え、その総体としての生徒理解に努めること。
- (5) 生徒のよりよく生きようと努力している姿を積極的に評価すること。
- (6) 道德性の種々な評価方法の特性を生かした活用に関心し、一つの評価方法に偏ることなく、様々な評価方法により総合的な評価を行うよう努めること。
- (7) 日常の学校生活においては、常に評価の観点をもって生徒に接し、評価を蓄積しながら、より長期的な視野をもって継続的・計画的に評価するよう努めること。
- (8) 複数の教員による様々な視点からの評価を大切に、教師相互の情報交換をもとに、より客観的な評価がなされるよう努めること。

2 道德教育における評価の在り方

道德教育における評価は、生徒自らが人間としてよりよく成長していくことを支えるためのものであり、教師が生徒の人間的な成長を見守り、よりよく生きようとする努力を評価し、勇気付ける働きをもつものである。教師一人一人が、このことを十分に踏まえ、評価に当たることが大切である。

そのためには、道德教育の目標や内容をもとに、評価の観点を適切に定め、それに照らして評価していくことを基本としなければならない。生徒がどう成長したかを明らかにするためには、指導の前後における生徒の心の動き、変容を様々な方法で的確に捉えることが必要である。短期的に指導の成果が表れる内容とそうではない内容とがあるが、評価計画を作成し、意図的、計画的に評価を実施していくことが大切である。その上で、結果を踏まえて自らの指導を評価し、指導計画や指導方法を練り直し、改善を図っていくことが重要である。

具体的には、学習指導要領解説道德編第8章「生徒理解に基づく道德教育の評価」の3「評価の創意工夫と留意点」に記されている内容を基に評価していくことが大切である。

「生きる力」の中核は豊かな人間性であり道德性である。道德教育の充実が「生きる力」の育成を目指す学校教育そのものにつながることを踏まえ、道德教育の評価を充実させていかなければならない。

第3 生徒の道德性の理解と評価

1 評価の観点

生徒の道德性は人格の全体にかかわるものであり、いくつかの要素に分けられるものではない。しかし、その理解と評価に当たっては、指導との関係から、次の四つの観点について分析することが多い。

(1) 道德的心情について

道德的に望ましい感じ方や考え方、行為に対して、あるいは望ましくない感じ方や考え方、行為に対して、生徒がどのような感情をもっているかについて把握する。

道德的心情は、表情やそぶりなどに表われる。

例：クラスで起こった問題について、自分から何とかしようと感じているか、誰かがやってくれないかと感じているか、自分には関係ないと感じているか。

(2) 道德的判断力について

道德的諸価値についてどのように捉えているか、また道德的な判断を下す必要がある問題場面に直面した際に、生徒がどのように思考し判断するか等を把握する。

道德的判断力は、行為の善悪だけではなく、その行為の理由の中に表われる。

例：きまりを守るのは、叱られるのが嫌だからか、守った方が皆が気持ちよく過ごせると考えるからか。

(3) 道德的实践意欲と態度について

学校や家庭での生活の中で、道德的によりよく生きようとする意志の表れや行動への構えが、どれだけ芽生え、定着しつつあるか等を把握する。

意欲と態度は、ある行為がどういう思いだったのかを表現させることにより、把握することができる。

例：人が見ていようといまいと、ゴミが落ちていたら拾おうと思う気持ちと実際の行為があるか。

(4) 道德の習慣について

特に、基本的な生活習慣をどの程度身に付け実践できているかを把握する。

上記の観点の他に、道德的諸価値を含む道德の内容項目を観点とし、中学校生徒指導要録の「行動の記録」との関連を図ることもできる。

2 評価の方法

生徒の道德性を理解し評価するための方法の基本は、「観察・面接」と「表現の分析」と言える。生徒の内面に寄り添いながらきめ細かな「観察・面接」をするとともに、可能な限り生徒自身に自己の内面を表現させる活動を充実することが大切である。そのことは、主体的に道德性をはぐくむことにつながる。

(1) 観察による方法

生徒のあるがままの行動を観察し、継続的に記録する方法である。その際、表面に現れた言動だけではなく、わずかな心の動きをも感じ取ることが求められる。生徒の道德性の成長の姿やよさを積極的に評価し、称賛していくことが大切である。

道德性の記録簿

氏名 ○○○○

日付	行 動 内 容
5/15	学級の係活動に、意欲はあるが、行動に移すことができない。
7/10	合唱コンクール実行委員に推薦される。学級に目が向けばよいが・・・。
9/22	学級の中心で合唱コンの練習に取り組む。集団の一員としての自覚が高まりつつある
10/29	皆の声をともに、新しい学級の係をつくる。集団生活の向上に努めている。

(2) 面接による方法

直接に相對して話すことにより、その感じ方や考え方などを理解しようとする方法である。教師自身が面接の心構えやカウンセリング的な技法などについての研修を深めておくことが必要である。生徒との心の交流は親密な人間関係を構築することにもつながる。

(3) 質問紙などによる方法

あらかじめ作成した質問や、生徒が直面すると考えられる問題場面での生徒の判断やその理由などの記述を通して、生徒の道德性の実態を理解しようとする方法である。生徒の自己理解や保護者の目を通しての評価などにもつなげられる。

(4) 作文やノートなどによる方法

生徒の生活体験、反省、意見、希望などが感想や理由を伴って述べられることにより、生徒の内面を理解しようとする方法である。そのため、考えの根拠・理由をはっきりと記述させることが大切である。生徒の文章に対して受容的な立場から称賛や励ましの言葉を添えることにより、生徒の成長への意欲を喚起することができる。一人の考えを学級全体に広めたい場合は、本人の了解のもと、教室内に掲示をすることも考えられる。

(5) その他の方法

事例研究や、各種テストなどの方法である。その場合には、目的や注意事項をよく理解して使用する。

自分の考えとともに、そう考えた理由がどのように記述されているか。また、どのような道德的価値を自覚することができたかを評価する。

【職場体験活動を終えて】
私は、以前はお金を稼ぐために働くのだと思っていました。しかし、職場体験を終えて、お客様の喜びのために働くことが自分の喜びにつながることを事業所の方から学びました。私は、自分のよさを伸ばし、生かしながら、お客様の喜びを感じることができ、仕事に就きたいと思っています。
(生徒作文)

3 道徳教育の評価

道徳教育における評価は、生徒自身による自己評価を生かして新たな目標への努力を支援するとともに、生徒の道徳的なよさや道徳的成長に対する共感的な理解に基づいて指導計画や指導方法を評価し、指導の改善に生かしていくことが大切である。また、場面としては、(1)各教科等の特質に応じた適切な指導と評価、(2)日常的な生活の場面における指導と評価、(3)「規律ある態度」達成目標の取組の指導と評価、(4)体験活動における指導と評価、(5)情報モラルに関する指導と評価、(6)家庭や地域社会との連携に関する評価などがあげられる。

ここでは、「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の評価」と、それを補充、深化、統合する要としての「道徳の時間の評価」との関連について、中学校第1学年の4月「中学生としての自覚を深めよう」を例にあげてみる。



4 道徳の時間の指導と評価

道徳の時間は数値などによる評価は行わず、生徒の実態や心の変容を捉え、指導の改善に生かすための評価に努めることが大切である。ここでは、道徳の授業を実施するにあたり、作成した学習指導案、授業記録をもとにその具体例を示す。

- (1) 学習指導案は、主題のねらいを達成するために、生徒がどのように学んでいくのかを十分考慮して、教師が何を、どのような順序で、どのような方法で指導し、評価し、更に指導に生かすかなどの学習指導の構想を一定の形式にまとめたものである。したがって、道徳の時間を計画する際には、生徒の道徳性の実態を事前に十分把握し、指導者の願いを併せて主題やねらいを設定する。また、把握した生徒の実態は資料の選定や学習指導過程の構成に生かし、「主題設定の理由」に明記しておくようにする。

1 主題名 思いやりの心、人間愛 2-(2)

資料名 「母の誘い」(出典「彩の国の道徳」中学校『自分をみつめて』埼玉県教育委員会)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

内容項目で、身に付けさせたい道徳的価値が明確になっているか。

内容項目2-(2)は「温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。」ことをねらいとしている。思いやりの心をもって相手に接することは難しい面もある。相手に思いやりを示そうと強く思うほど、相手からの見返りを期待したり、「してあげた」という優位の感情が生まれてしまう。

中学校生活も折り返しを過ぎた。生徒を取り巻く社会はますます広がり、様々な立場の人と支え合いながら生きていくことが必要とされる。そこで相手の立場や気持ちを尊重しながら、互いに支え合って生きようとする態度を身に付けさせたいと思い、本主題を設定した。

「観察」や「アンケート」をもとに、ねらいとする価値について、生徒の道徳性の実態を把握しているか。

(2) 生徒の実態について

大きな行事への取組を通し、学級内の協力性が高まってきた。

日々の学校生活の中で、困っている友人に進んで手を貸せる生徒も増えてきた。1学期に実施した「思いやり」についてのアンケートでも「人の役に立ちたい」と、ほぼ全員が答えており、主題にかかわる道徳的心情は育っている生徒が多いと思われる。しかし、「見知らぬ人が困っていた時、手を貸した経験がある」と回答した生徒は、数名にとどまった。恥ずかしさや不安が先立ち、社会生活の中での実践に結び付いていないと考える。

体験活動や他の教育活動との関連を図って、授業を計画しているか。

先月まで総合的な学習の時間では「共に生きる」をテーマに学習を進めてきた。体験したことや収集した情報をまとめ、学習成果を共有していく中で、生徒は「さまざまな立場の人と、互いに支え合って生きること」に関心を向け始めている。これまでの学習を「補充」「深化」「統合」する道徳の時間として本時を位置付け、相手の気持ちを考えることの大切さに気付かせたい。

(3) 資料の活用について

主人公の彩香は、人のために尽くすことが好きな中学生である。ボランティア活動に参加するものの、上手く相手と触れ合えず「相手のためにやってあげているのに」という気持ちを口にする。一時は自信を失うが、母の話をきっかけに『してあげている』という気持ちを捨て、『自分がしたい』という気持ちをもつことの大切さに気付いていく。

彩香がボランティア活動の中で感じる苦悩は生徒たちにも共感しやすいと思う。最後は「他者に尽くすことで味わう、自分自身の喜び」に気付く彩香の前向きな思いでしめくくられ、本時の授業で生徒に考えさせたい価値を満たした資料であると考え

ねらいについての考えを深めるために資料の選択は適切であるか。

後半で覚醒する彩香の気持ちを生徒が共感的に受け止めるためには、資料の前半で、知らず知らずのうちに「見返りを求める」「相手より優位に立った気になってしまう」彩香の言動に、十分共感させておく必要がある。そのため

資料の活用の仕方が明確にされているか。

に、導入の役割演技で価値の方向付けを行い、展開では補助発問や切り返しの発問を適宜取り入れることで深く考えさせたい。展開の後半では書く時間を確保し、資料を離れて自己を見つめさせたい。

3 ねらい

思いやりの心をもって相手に尽くし、互いの立場や気持ちを尊重しながら支え合って生きようとする態度を養う。

4 他の教育活動等との関連

事前指導	・「思いやり」についてのアンケートを実施する。	【記述から生徒の道徳性を評価する。】 →主題の設定、資料の選定に生かす。
総合的な学習の時間	・「視覚障害者・盲導犬とのふれあい」「アイマスク体験」「ビデオの視聴」「情報の収集」 ・体験活動の感想を学級通信で取り上げ、思いやりについての考えを共有しておく。	【体験活動中のつぶやきや体験後の感想文から、生徒の道徳性を評価する。】 ＊「アイマスク」をしたらとても怖かった。障害がある人を <u>助けてあげたい</u> と思った。 ＊中途失明をして仕事を失うなんて、 <u>かわいそう</u> だと思った。
	  線部分のように、自らの優位性を感じさせる表現も見られた。 相手の立場を尊重し、共に支え合うという意識を育てたい。 体験したことや収集した情報から学んだことを「補充」「深化」「統合」するために、<u>道徳の時間を計画する。</u>	
道徳の時間	・資料名「母の誘い」	
事後指導	・学校生活の中で、思いやりのある言動や助け合う場面を見取り、努力や成長を認める声かけをする。	
授業を評価、考察し、今後の学級経営に生かす。継続した指導で道徳性を養っていく。		

(2) 道徳の時間のねらいを達成するためには、授業中の生徒の反応から道徳性の変容を適切に評価し、すぐに板書や発問に生かしていくことが求められる。特に、発問に対して熟考せずに答える生徒や、資料中の表現ばかりを探して答えようとする生徒に対しては、心に揺さぶりをかける発問を工夫したい。生徒の発言の意図を明確にし、話合いを深めるための手立てとなる発問例を.....線の枠内に示した。

	学習活動（主な発問）	生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価の観点
導入	1 役割演技で本時の道徳的価値を捉える。		《道徳的価値への方向付け》 ☆役割を交替で演じながら、本時のねらいとなる道徳的価値をつかんだか。 【生徒の発言から評価】 ◎「Bの後にAを演じたら」という発言 ⇒役割を交替したことで、両者の感じ方の違いに気付いている。優しさが相手に伝わらない原因を、“相手”の立場に立つことで理解しようとしている。 ◎「“～あげる”の言葉……」という発言 ◎「優しさの押し付け」という発言 ⇒A自身の優位性が表現された言葉であり、相手は快く思えないことに気付いている。
	A：ねえ、Bさん。音楽室まで荷物を持ってあげる。 B：大丈夫。ケガはほとんど治ったから、自分で持てるよ。 A：遠慮しなくていいよ。手伝ってあげる。荷物を貸して。 B：う、うん。ありがとう。	【Aを演じた時】 ・お礼を言われてうれしかった。 ・Bの後にAを演じたら「～あげる」の言葉が、 <u>えらそうで気になった。</u> 【Bを演じた時】 ・「 <u>優しさの押し付け</u> 」だと思った。 ・本当は「自分でできる！」と言いつつ、 <u>したくなかった。</u>	

2 資料を読んで話し合う。

- ・条件、状況の確認
- ・資料の範読

(1)
母との会話後、「心の中にも
やもやしたものが残った。」
とあるが、彩香はどんなこと
を考えていたのだろうか。

- ・資料の条件・状況を把握する。
- ・心の動きに着目しながら範読を聞く。

- ・こんなにがんばったのに、なぜ母はほめてくれないのだろう。
- ・拓也くんのために話しかけてあげたのに、気持ちをわかってくれないのはなぜだろう。
- ・母が私の気持ちを受け止めてくれると思っていたのに・・・という、もやもやとした思い。

資料中の表現を、そのまま発言している。
この生徒に、もう少し深く考えさせたい。

- S1：母が気持ちを受け止めてくれると思っていたのに・・・と、もやもやしていたのだと思います。
T：「もやもや」とはどんな気持ちかな？聞かせてくれる？
S1：不満があるのに、はっきり言えないような気持ちです。
T：不満は誰に対してのもの、どんな不満なんだろう？
S1：母や拓也くんに、気持ちがわかってもらえない不満です。

- ・資料の条件・状況を整理する中で、彩香が母に憧れる気持ちに注目させておく。

《人間の弱さへの共感》

☆主人公、彩香の気持ちに共感しているか。 【生徒の発言から評価】

- ◎「してあげたのに」という発言
⇒自発的なボランティアでありながら、相手からの見返りを求めてしまう主人公の心の動きを把握し、共感的に考えている。
- ◎「～してくれない」という発言
⇒期待通りに反応してくれない相手に対する主人公の不満に共感している。

評価(★)と、話し合いを深める手だて(○)

- ★資料中の表現を、そのまま発言している。
- 補助発問で発言の意図を明確にする。
- ★発言の一部が、抽象的である。
- 切り返しの補助発問で具体化し、より深く考えさせる。

(2)
「家に帰ってもそのことばかり
考えていました。」とある
が、彩香はどんなことを考
えていたのだろうか。

- ・スプーンを拾ってあげたのに拒否する、おばあさんは恐かった。
- ・自分は一生懸命にお世話をしているのに、感謝のひとつもないのか。

(3)
「私の心が徐々に晴れてい
く」とあるが、彩香はどんな
ことに気付いたのだろうか。

- ・「せっかく・・・のに」「～してあげている」といった気持ちが、相手は嫌だったのかかもしれないなあ。
- ・見返りや感謝の言葉が目的ではなくて、相手が喜ぶのを見て自分がうれしい気持ちになれたらいい。

ねらいとする道徳的価値に気付きつつある。
個人の「気付き」を学級全体に広めたい。

- S2：「相手が喜ぶのを見て、自分がうれしい気持ちになれたらいい。」と、彩香は気付いたのだと思います。
T：でも、さっきまで彩香は不満ばかり言っていたよね？
S2：うーん。確かに。でも、相手の気持ちを考え始めたことで、彩香は変わったのだと思います。
T：なるほどね。他の人は、S2さんの考えをどう思う？

- ・(1)の発問と併せ、彩香が「相手より優位な状態」で出来事を振り返っていることに気付かせる。

☆主人公の心がゆれ動いていることをおさえる。

《価値への気付き》

☆主人公の心の変容を捉えることができたか。 【生徒の発言から評価】

- ◎「相手は嫌だった」という発言
⇒押しつけの優しさでなく、相手の気持ちを考え始めた彩香の変化を捉えている。
- ◎「自分がうれしい気持ち」という発言
⇒ボランティア参加は、自分のためでもあると考え始めた彩香の変化を捉えている。

評価(★)と、話し合いを深める手だて(○)

- ★道徳的価値に気付きつつある。
- 主人公の変容を振り返る発問で、生徒の心に揺さぶりをかけ、さらに考えを深めさせる。
- 補助発問で生徒相互の発言をつなげ、話

	S3：同じです。彩香は母の言葉を聞いて、大切なのは「相手の気持ち」だと気付いたと思います。	合いを広げながら、道徳的価値の自覚を学級全体に深めさせる。
	3 今日の授業について考えたことを書く。	・自分と道徳的価値のかかわりを書く。 ・授業で自分が成長したことを書く。
終末	4 教師の話を聞く。	・これからの生き方についての課題意識を持たせるが、決意表明にならないようにする。 ・社会の中で互いに支え合って生きる人々の姿を紹介し、余韻を残す終末とする。

(3) 授業後に行う評価を「教師側の評価」と「生徒側の評価」に分けて示す。本時のねらいとのかかわりにおいて適切に評価し、指導方法の改善や今後の学級経営、個別指導に生かすよう努めるとともに、生徒が道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、自己のより豊かな心の成長を実感することができるようにする。

本時の評価の観点

- ・思いやりをもって人に接するためには、相手の気持ちや立場を尊重することが大切になることに気付いたか。
- ・社会の一員として、様々な立場の人と支え合って生きようとする意欲がもてたか。

①教師の指導改善のための評価例

＊生徒の表情や発言、道徳ノートの記述から、教師が自己評価し、指導方法の改善に生かす。

(導入)□ ねらいとする道徳的価値の自覚に向けた動機付けを行えたか。

(展開)□ 綿密な資料分析を基に生徒の発言や考えを生かしながら展開できたか。

□ 発問構成の工夫や適切な指名により、生徒相互の意見のやりとりを作り出すことができたか。

□ 資料を追求して把握した道徳的価値を、生徒たちの生活や体験と結び付けながら考えさせたか。

(終末)□ 価値の押し付けではなく、生徒の心に届く余韻を残せたか。

・導入の役割演技が、本時では効果的であった。
・補助発問によって、話合いが広がった。
・書く活動を取り入れたことで、生徒が自分自身を見つめられた。

②生徒の道徳性の評価例

＊ワークシートへの記述内容から、授業の前後における生徒の道徳性の変容を評価する。

実は、私もケガをした時に同じようなことを思った。助けてもらえてうれしかったけど、何度も言われると自分が何もできない人みたいで悲しくなった。

日常の体験と結び付け、ねらいとする道徳的価値を自覚している。

授業中に〇〇さんが「おばあさんは、彩香に見下された気がしてイヤだったのだと思う。」と言った時、ハッとした。親切にしたいと思っても、相手を傷つけてしまう。まず相手の気持ちを考えて、優しい気持ちで人に接したい。

友達の発言を聞き、自分の考えを深めている。

総合的な学習の時間に、視覚障害のある人は「かわいそう。」と思ったけれどそれは違うと思った。アイマスクをしたら、私はまったく歩けなかったのに、盲導犬と一緒に、どんどん外出する△△さんのことを心から尊敬した。これからは、△△さんがおっしゃっていたように、「何か手伝えることはありますか?」と、声をかけてお手伝いしてみようと思う。

~~~~線部分の発言から、道徳的価値とのかかわりにおいて自らを振り返り、よりよく生きようとする意欲が見られる。

本時の学習と体験学習とを結び付け、具体的な自分の姿を見つめようとしている。

## 第4 道徳教育の充実を図るための評価

### 1 指導計画の評価

#### (1) 「全体計画」の評価

道徳教育の全体計画は、学校が設定する道徳教育の基本方針を示すとともに、学校の教育活動全体を通じて、道徳教育の目標を達成するための方策を総合的に示した教育計画である。また、全体計画は、その基本方針を具体化する上で、学校として特に工夫し、留意すべきことは何か、各教育活動がどのような役割を分担するのか、家庭や地域社会との連携をどう図っていくのかなどについて総合的に示すものでなければならない。

以上のように道徳教育の全体計画は、学校の教育活動全体とつながる要として極めて重要であり、他の教育活動との関連が十分に図られ、つながりを今まで以上に重視する必要がある。そこで全体計画の別業として、各教科等をはじめ、道徳教育にかかわる体験活動、家庭や地域社会等との連携などについて、その「内容及び時期」を示す資料を作成することが大切になる。また、全教師により一貫性のある道徳教育を推進するために、道徳教育推進教師を中心に改善に取り組む校内体制を充実させ、全体計画の具体化や評価・改善にかかわる共通理解を図ることが必要である。

#### ア 「全体計画」の年間評価計画例

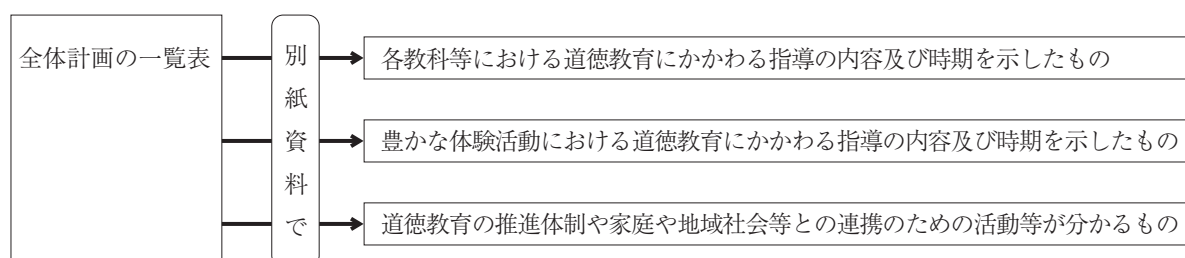
全体計画が形骸化することを防ぐには、実践しながら評価を行い、それを蓄積して計画の改善に役立てる必要である。

| 学期   | 全体計画の評価                                                                                                                 | 評価の実際                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 学期 | <input type="radio"/> 全体計画の確認、共通理解<br><br><input type="radio"/> 1 学期の計画、重点指導の確認<br><input type="radio"/> 1 学期の教育活動の振り返り | <p>次の点について確認する。</p> <p>学校の教育目標、道徳教育の重点目標、各学年の重点目標、道徳の時間の指導方針、各教科・総合的な学習の時間及び特別活動などにおける道徳教育の指導の方針・内容及び時期、特色ある教育活動や豊かな体験活動における指導との関連、学級・学校の環境の充実・整備や生活全般における指導の方針、生徒との信頼関係をはぐくむ教師の在り方や教師間の連携方法、家庭・地域社会・関係機関・小学校・高等学校・特別支援学校等との連携方針、道徳教育の推進体制（道徳教育推進教師の位置付けを含め）評価計画・研修計画・重点的指導に関する添付資料 等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 学期の教育活動と道徳教育の関連や重点指導を確認する。</li> <li>・ 1 学期の全体計画の推進状況を振り返り、改善案を策定する。</li> </ul> |
| 3 学期 | <input type="radio"/> 本年度の反省<br><input type="radio"/> 次年度の全体計画の作成                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間を通しての全体計画の推進状況を振り返り、改善案を策定する。</li> <li>・ 生徒の実態等を把握し、次年度の学校教育目標案や全体計画における校長の道徳教育の方針案を踏まえ、全体計画案を作成する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                           |

※ 「次年度の全体計画の作成」にあたっては、埼玉県中学校教育課程指導資料・第2章道徳「第2 指導計画作成のための資料」の「1 全体計画の作成と内容（1）作成に向けての組織体制と作成の手順」（p164）を参照されたい。

#### イ 「全体計画」の評価

全体計画については、全体計画の「一覧表」と内容及び時期を示した別業「別紙資料」の2つが考えられる（下図参照）。そのため評価についても、それぞれについて行う必要がある。



(ア) 全体計画の「一覧表」の評価

全体計画の「一覧表」について、計画の実施状態や効果の程度などを評価する機会を定期的に設ける必要がある。その際、以下の補助簿等を活用し評価を行い、課題等を明確にする必要がある。そして、一覧表に自由記述欄を設けるなど、気付いたことを随時記入できるようにしておく。

第○学年「全体計画一覧表」評価補助簿

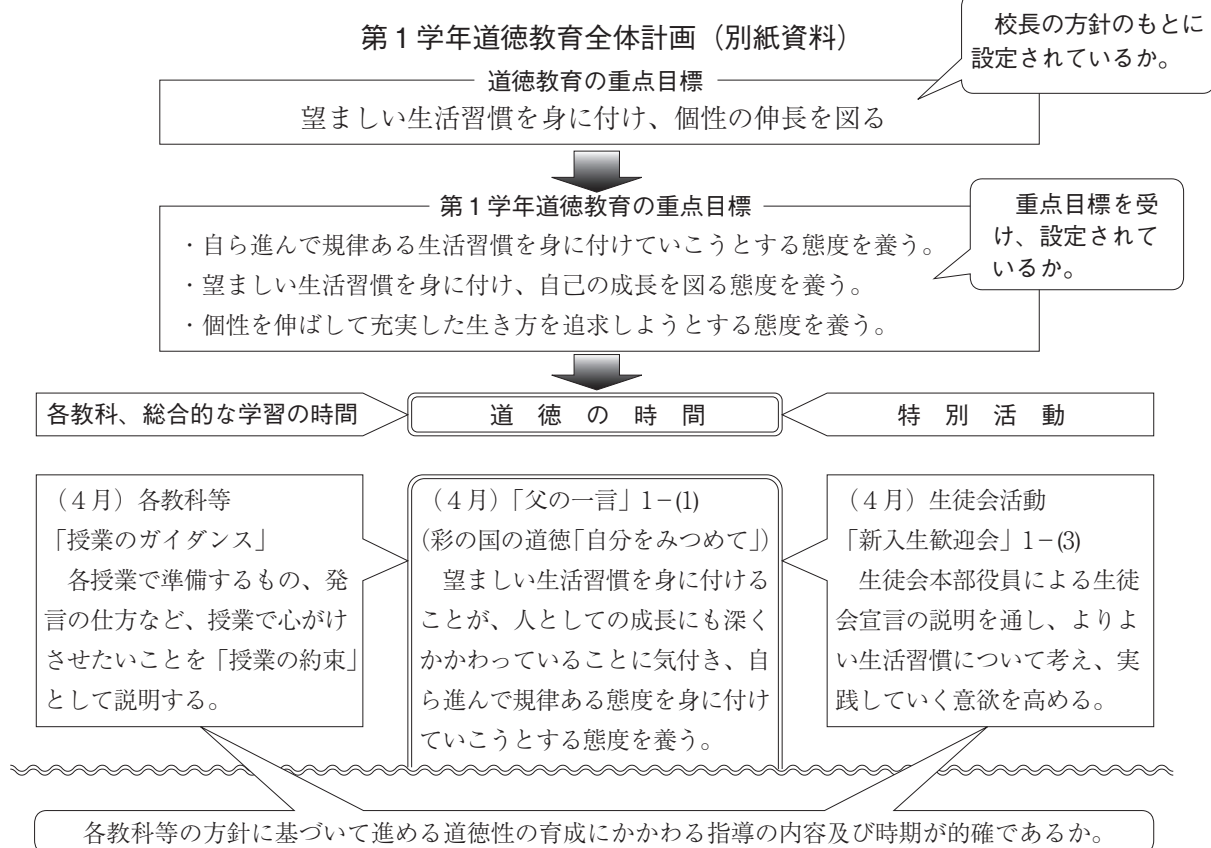
A：大変よい B：よい C：改善が必要 D：大幅な改善が必要

| No. | 評価の視点                                                                   | 評価 | 備考                          |
|-----|-------------------------------------------------------------------------|----|-----------------------------|
| 1   | 校長の方針の下、道德教育推進教師を中心として全教師が参加、協力し、学校教育全体で道德教育を推進するための指導体制や研修体制が整っているか。   | A  | 道德教育推進教師の役割を明示し、全教師で推進できた。  |
| 2   | 学校の道德教育の目標と重点目標とを十分に考慮し、道德の時間を要として、各教科等が有機的なつながりをもって指導できるよう計画されているか。    | C  | 関連を図る指導法について、具体的に記述する必要がある。 |
| 3   | 保護者や地域の人々の参加や協力を得るなど、家庭や地域社会との連携について具体的な方針や手だてが明確にされ、計画的に行われるようになっているか。 | B  |                             |
| 4   | 職場体験活動をはじめとする社会体験・自然体験活動等学校の独自性を生かした活動が計画的になされるよう協力体制等が明確になっているか。       | A  |                             |
| 5   | 人間関係の充実や道德教育に資する環境整備の具体的な方針や計画が明確にされているか。                               | B  |                             |
| 6   | 必要に応じて計画が改善される創意と工夫がなされているか。                                            | A  | 全教師に補助簿の記入を依頼し、改善の意見を集約できた。 |

(イ) 「全体計画一覧表」の評価例（「全体計画一覧表」の最下部に設けた自由記述欄への記入例）

- ・ 道德の時間を要として、各教科等が有機的なつながりをもった指導について、道德の時間の導入、展開後段、終末での活用例を校内研修等で深めていく必要がある。そのため、校内研修で扱う時期等を明示する。
- ・ 道德教育推進教師の役割が明確にされていることが、全教師が参加、協力し、学校教育全体で道德教育を推進するための指導体制や研修体制につながった。

(ウ) 全体計画別紙資料「各教科等との関連を示したもの」の評価の例



## (2) 年間指導計画の評価

年間指導計画が一層効果的に活用されるためには、実施の反省に基づき、道德教育推進教師が中心となって全教師の共通理解を図り、年間指導計画の評価と改善を行うことが大切である。道德教育推進教師はそのための研修体制の確立や資料の収集・紹介・整備・開発を心掛ける必要がある。

### ア 年間指導計画の評価計画例

| 月        | 年間指導計画の評価                 | 評 価 の 実 際                                                                                                                                             |
|----------|---------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4        | ○年間指導計画の確認、共通理解           | 次の点について、確認をする。<br>・全体計画に基づく道德の時間における各学年の基本方針<br>・各学年の年間にわたる指導の概要<br>指導の時期、主題名、ねらい、資料、主題構成の理由、展開の概要及び指導の方法、他の教育活動等における道德教育との関連、管理職や他の教師、保護者や地域の方との連携、等 |
| 毎月<br>月末 | ○翌月の指導計画の確認               | 道德教育推進教師や学年の道德担当などが、月別の様式で作成した指導計画を配布し、学年会等で確認をする。                                                                                                    |
| 3        | ○本年度の反省<br>○次年度の年間指導計画の作成 | 月別の様式で作成した指導計画をもとに、次年度に向けて改善策を策定する。全体計画と併せて見直しを行う。                                                                                                    |

### イ 年間指導計画の評価とその創意工夫例

| 評 価 の 観 点                                                         | A | B | C | D | 備 考                             |
|-------------------------------------------------------------------|---|---|---|---|---------------------------------|
| ・道德教育の全体計画との関連を十分に考えて作成されているか。                                    |   | ○ |   |   | 具体的に記述する必要がある。                  |
| ・重点的な指導や複数回取り上げる内容項目の指導について工夫され、具体的に計画されているか。                     |   |   | ○ |   | 指導時期に偏りがあったため、見直していきたい。         |
| ・豊かな体験活動や他の教育活動と密接な関連をもたせた指導などについて工夫され、具体的に計画されているか。              |   | ○ |   |   |                                 |
| ・一年間を通して、また、学年段階を通して、更に3年間を通して、計画的、発展的、調和的に内容項目の指導がなされるようになっているか。 |   |   | ○ |   | 3年間を通しての指導にはならなかったもので、見直していきたい。 |
| ・ねらいや指導内容が学年の発達の段階に則しているか。                                        | ○ |   |   |   | 道德教育推進教師を中心に整備された。              |
| ・資料や指導方法において、年間を通して※多様な授業が展開できるようになっているか。                         |   |   | ○ |   | 魅力的な教材が不足していたので、増やしていきたい。       |
| ・個々の主題について、「ねらい」「資料」「展開の概要」などが適切か。                                |   | ○ |   |   |                                 |
| ・校長や教頭などの参加、他の教師との協力的な指導を行うことができたか。                               |   |   |   | ○ | 学期に1回はT Tを取り入れていきたい。            |
| ・保護者や地域の人々の参加や協力などについて、具体的に計画されているか。                              |   |   |   | ○ | 保護者の方に協力してもらう場面を意図的につくりたい。      |
| ・研修計画が明確になっているか。                                                  |   | ○ |   |   |                                 |

A：大変よい B：よい C：多少改善が必要 D：改善が必要

※多様な授業の展開とは、次のようなものが考えられる。

- ・生徒が感動を覚えるような魅力的な教材の開発・活用
- ・表現し考えを深める指導
- ・情報モラルに関する指導 等

ウ 年間指導計画の評価例

年間指導計画に評価欄を設けて、その都度気付いたことなどを記入しておくようにする。また、定期的に研修会を設けて、実施した授業の評価を行い、次の指導に生かす工夫も必要である。

指導で用いる中心的な資料の題名と出典、補助教材や予備資料等が明記されているか。

校長や教頭などの参加及び他の教師の協力的な指導の計画、保護者や地域の人々の参加・協力の計画、複数の時間取り上げる内容項目の場合の全体の構想等、示されているか。

| 月                    | No. | 主題名・内容項目<br>資料名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 主題構成の理由                                                                                                                                         | 他の教育活動等における<br>道徳教育との関連                                                                                                             | その他                                                                                                       |
|----------------------|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                      | 実施日 |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                                                                                                                                 |                                                                                                                                     |                                                                                                           |
| 4                    | 3   | 責任感の強い人間<br>1－（3）<br>「私たちの初詣」<br>（出典「彩の国の道徳」中学校『自分をみつめて』）                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 自ら考え、判断し、実行し、自己の行為の結果に責任をもつことは大切である。しかし、中学生の時期は他人の言動に左右され流されやすい面もある。優子の年賀状からその優しさに触れ、仲間はずれにしたことを後悔し、自分から謝ろうとする美香子の行動を通して、自分で判断し実行しようとする態度を養いたい。 | 日常の学級活動や生徒会活動、部活動など学校生活の様々な場面で、自分で考え判断し、行動するとともに、そのことに責任をもつ態度を養っていく。<br>携帯電話の使用など情報モラル教育との関連を図<br>特に関連する教育活動や体験活動、学級経営の取組等が示されているか。 | 責任感とは外から押し付けられるものではなく、本人の成長とともに自覚されるものと捉え、時として自己中心的な言動も温かく見守っていききたい。<br>家庭との連携を密にして、道徳の指導がより効果的になるように努める。 |
| ( )<br>月<br>( )<br>日 | ねらい | 他人の言動に左右されることなく、自主的に考え判断し、誠実に実行してその結果に責任をもとうとする態度を養う。                                                                                                                                                                                                                                                                                       | 評価                                                                                                                                              |                                                                                                                                     |                                                                                                           |
|                      |     | ねらいとする生徒に身に付けさせたい道徳性の内容や観点が端的に表されているか。                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                 |                                                                                                                                     |                                                                                                           |
|                      |     | 指導上の留意点<br>指導の要点及び<br>導入 まわりの意見に流された経験がありますか。<br>展開 『私たちの初詣』を読んで主人公「美香子」の気持ちを中心に話し合う。<br>(1) 「メールを返してこない優子が悪い」と、携帯電話を置いた時の美香子は、どんな気持ちだったのだろうか。<br>(2) 美香子は、なぜ真希の携帯電話をとっさに取り上げたのだろうか。<br>(3) 美香子はどんな思いで真希に電話をかけたのだろうか。<br>(4) 「ありがとう」と優子に言われた時の美香子はどんな気持ちだったのだろうか。<br>(5) 美香子の行動の変化を通して感じたことや考えたことをまとめる。<br>終末 自分で決めて実行し、充実感に満たされた教師の経験談を聞く。 |                                                                                                                                                 |                                                                                                                                     |                                                                                                           |
|                      |     | 〔指導の時期〕<br>◎・×（ 月頃）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                                                                                 |                                                                                                                                     |                                                                                                           |
|                      |     | 〔指導の反省〕<br>(3)の発問でもう少し時間をかけて話し合いをさせた方がよかった。                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                 |                                                                                                                                     |                                                                                                           |
|                      |     | 〔次年度に向けて〕<br>「心のノート」を終末に活用できる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                 |                                                                                                                                     |                                                                                                           |

ねらいを踏まえて、資料をどのように活用し、どのような手順で学習を進められるのかについて簡潔に示されているか。

月別の様式で作成した年間指導計画の中にこのような評価欄を設け、その都度気付いたことを授業者に記入してもらうようにする。

### (3) 「学級における指導計画」の評価

学級は生徒にとって学校生活における身近な集団であり、学習の場である。学級がもつ雰囲気は、学級に所属する生徒に大きな影響を与え、生徒たちは授業だけでなく、学級での組織づくりや役割分担、諸問題の解決等を通じ、多くのことを学びながら人間的に成長していく。学級担任の教師は、そのような学級のもつ重要性を認識し、学級における生徒の存在感を高め、所属してよかったという喜びがもてる学級づくりに励み、すべての生徒がもっている可能性を最大限に伸ばし、望ましい人格を形成していくようあらゆる角度から指導・助言を行う必要がある。

学級における指導計画は、その学校の道德教育の全体計画に基づき、学級担任が作成するものである。したがって、より高い教育効果を得るために、常に指導計画及び指導方法について評価し、工夫・改善を行う必要がある。評価は、学期ごとや月ごとに行い、日々の教育活動に生かすようにする。また、学級担任の教師のみによることなく、多くの目で客観的に捉え、総合的に道德性の全体の成長を見ていくことが大切である。

#### ア 「学級における指導計画」の年間評価計画例

学級における指導計画は、学級における道德教育の指導方針などがまとめられ、日常の道德教育の指針となるものである。そこで、学級担任は、自己評価などを定期的に行い、指導計画の改善を図っていくことが大切である。

| 学期   | 学級における指導計画の評価                                                                                                                                                                                                     | 評 価 の 実 際                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 学期 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○指導計画の形式や内容の確認<br/>(道德教育推進教師・全教師)</li> <li>○学級における指導計画の作成<br/>(学級担任)</li> <li>○グランド・デザイン化した「学級における指導計画」を家庭へ配付<br/>(学級担任)</li> <li>○1学期の教育活動の評価<br/>(学級担任・学年の職員)</li> </ul> | <p>次の点を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の道德性の実態や傾向、生徒や保護者・教師の願いの把握、各教科・総合的な学習の時間及び特別活動における道德教育との関連、豊かな体験活動、生徒指導、環境整備、基本的な生活習慣、「規律ある態度」の取組などの重点的な内容や方法、他の学級や学年との連携、家庭や地域社会との連携、授業公開の内容や方法</li> <li>・他の担任教師が作成した「学級における指導計画」を参考にできる場を設定する。</li> <li>・学級懇談会や面談等を利用して、保護者による評価を行う。</li> <li>・生徒の自己評価や相互評価、観察した生徒の実態をまとめる。</li> </ul> |
| 2 学期 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○2学期の計画の見直しと確認<br/>(学級担任・学年の職員)</li> <li>○2学期の教育活動の評価<br/>(学級担任・学年の職員)</li> </ul>                                                                                          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期にまとめた生徒の実態に基づき、指導計画の推進状況を確認する。</li> <li>・生徒の自己評価や相互評価を行う。</li> <li>・2学期に把握、観察した生徒の実態をまとめる。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                    |
| 3 学期 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○3学期の計画の見直しと確認<br/>(学級担任・学年の職員)</li> <li>○3学期の教育活動の評価<br/>(学級担任・学年の職員)</li> <li>○指導計画の形式や内容の改訂<br/>(道德教育推進教師・全教師)</li> </ul>                                               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期にまとめた生徒の実態に基づき、指導計画の推進状況を確認する。</li> <li>・生徒の自己評価や相互評価を行う。</li> <li>・3学期に把握、観察した生徒の実態をまとめる。</li> <li>・改善点を抽出し、改善策を次年度の改訂に生かす。</li> </ul>                                                                                                                                                                  |

※ 生徒の実態については、授業や諸行事、生徒指導、教育相談内容、家庭訪問や学校公開等を通して継続的に生徒の道德性の把握に努める。

イ 「学級における指導計画」の評価例

学級における指導計画の評価に当たっては、指導計画の中に評価の欄を設ける（埼玉県中学校教育課程指導資料・第2章道徳 P170参照）。そして、学期ごとに補助簿等を活用し評価を行い、課題等を明確にした上で「学級における指導計画」の評価欄に記入する。

ウ 「学級における指導計画」の評価の実例

(ア) 「学級における指導計画」の評価のための補助簿例

○年○組「学級における指導計画」の評価補助簿

【1学期】

A：大変よい B：よい C：改善が必要 D：大幅な改善が必要

| No. | 項 目             | A | B | C | D | 備 考                     |
|-----|-----------------|---|---|---|---|-------------------------|
| 1   | 基本的な生活習慣の指導との関連 | ○ |   |   |   |                         |
| 2   | 道徳の時間の指導        | ○ |   |   |   | ・年度当初のオリエンテーションが効果的であった |
| 3   | 各教科等の指導との関連     |   | ○ |   |   |                         |
| 4   | 教育環境の整備・充実      | ○ |   |   |   | ・道徳コーナーを設け、生徒とともに充実できた  |
| 5   | 豊かな体験活動の指導との関連  |   | ○ |   |   |                         |
| 6   | 生徒指導に関する指導との関連  | ○ |   |   |   |                         |
| 7   | 家庭・地域社会との連携     |   |   | ○ |   | ・道徳の時間の学校公開が行えなかった      |

【2学期】

A：大変よい B：よい C：改善が必要 D：大幅な改善が必要

| No. | 項 目             | A | B | C | D | 備 考                   |
|-----|-----------------|---|---|---|---|-----------------------|
| 1   | 基本的な生活習慣の指導との関連 |   | ○ |   |   |                       |
| 2   | 道徳の時間の指導        | ○ |   |   |   | ・生徒の授業への取組も意欲的であった    |
| 3   | 各教科等の指導との関連     |   | ○ |   |   |                       |
| 4   | 教育環境の整備・充実      | ○ |   |   |   |                       |
| 5   | 豊かな体験活動の指導との関連  |   |   | ○ |   | ・体験活動の機会が多いが、活用に課題がある |
| 6   | 生徒指導に関する指導との関連  | ○ |   |   |   |                       |
| 7   | 家庭・地域社会との連携     | ○ |   |   |   | ・計画通り進めることができた        |

【3学期】

A：大変よい B：よい C：改善が必要 D：大幅な改善が必要

| No. | 項 目             | A | B | C | D | 備 考 |
|-----|-----------------|---|---|---|---|-----|
| 1   | 基本的な生活習慣の指導との関連 |   |   |   |   |     |
| 2   | 道徳の時間の指導        |   |   |   |   |     |



(イ) 「学級における指導計画」の評価例（「学級における指導計画」の最下部に設けた評価欄の記入例）

|                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                          |                         |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|
| <p>&lt; 1学期の評価 &gt;</p> <p>年度当初のオリエンテーションにより道徳の時間に対する心構え、話合いのルールの確認ができ、授業がスムーズに行えた。しかし、道徳の時間の学校公開が行えなかったため、取り組む時期を明記する必要がある。教務部とも相談し、実施時期・内容を計画に位置付けていきたい。</p> | <p>&lt; 2学期の評価 &gt;</p> <p>1学期の反省であった家庭・地域社会との連携については、教務部と相談し、2学期の計画に位置付けて、授業参観、ゲストティーチャーを活用した授業を実施した。一方、豊かな体験活動を道徳の時間と関連付けた授業に課題がある。指導法について考えていきたい。</p> | <p>&lt; 3学期の評価 &gt;</p> |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|

## 2 家庭、地域社会との連携についての評価

### (1) 家庭との連携について

#### ア 主に学校が中心となる取組への評価

家庭との連携を深め、指導をより効果的に行うためには、学校で行う道德教育の意義やねらい、生徒の実態、取組の価値や成果等について、家庭の理解を深め、道德教育の推進を目指した啓発活動を継続して行う必要がある。道德教育推進教師や道德部会などはその中心となり、広報活動や相互交流の場を増やし定例化することが大切である。

〈主に学校が中心となる取組の視点〉

|   | 実践項目                                   | 実施 | 計画中 | 計画無 |
|---|----------------------------------------|----|-----|-----|
| 1 | 家庭地域への広報・啓発活動<br>（「道德通信」の発行・ホームページに掲載） |    |     |     |
| 2 | 保護者アンケートの実施<br>「保護者の思い（こんな子どもに育てたい）」   |    |     |     |
| 3 | 「3つの達成目標 規律ある態度」の取組への<br>呼びかけとアンケートの実施 |    |     |     |
| 4 | 「彩の国の道德 自分をみつめて」の活用                    |    |     |     |
| 5 | 道德一斉公開授業の計画と保護者アンケートの<br>実施            |    |     |     |
| 6 | 道德性を育成する親子の体験活動の立案と、事<br>後アンケートの実施     |    |     |     |
|   | ・全学年夏休み親子奉仕作業                          |    |     |     |
|   | ・全学年親子資源回収                             |    |     |     |
|   | ・2年親子郷土料理作り                            |    |     |     |

学校は道德の授業を実施する際、  
「授業のねらい」を家庭に知らせ  
ることが重要である。

評価

次年度の年間指導  
計画に生かす

#### ○ 道德一斉公開授業の評価の具体例

道德教育推進教師は、以下のような「学級担任の評価」「保護者の評価」の評価結果に自らの考察を加え、実施した公開授業を評価し、その結果を全教職員で共有するとともに、次回（次年度）に向け改善を図ることが重要である。

##### (ア) 学級担任の評価

|        | 第1学年                                                                   | 第2学年                                                                  | 第3学年                                                           | (3年)の評価                                                                                                       |                        |
|--------|------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------|
| 日時     | 12月2日（水）<br>第5校時                                                       |                                                                       |                                                                | この時期で<br>よいか。                                                                                                 | インフルエンザの心配がない<br>頃がよい。 |
| ねらい    | 勤労の尊さと意義<br>4-(5)                                                      | 家族愛<br>4-(6)                                                          | 家族愛4-(6)に夢の実現<br>1-(2)を加味                                      | このねらいで<br>よかったか                                                                                               | ちょうど生徒たちの実態に<br>合っている。 |
| 資料名    | はくの職場体験学習<br>「彩の国の道德」                                                  | 5分間の涙<br>（副読本）                                                        | 何だっていいんだあ<br>「彩の国の道德」                                          | この資料で<br>よかったか。                                                                                               | 分かりやすい内容でよい。           |
| 展開について | キャリア教育でお世話に<br>なった事業所の方の手紙<br>を最後に読み、働くこと<br>の大切さを思い出させ、<br>静かに授業を終える。 | ある保護者からの手紙を<br>最後に紹介し、子どもは<br>親にとって大切な存在で<br>あることを自覚させ、静<br>かに授業を終える。 | 保護者からの手紙を授業<br>の最後に渡し、親の思い<br>を全員が読み終わったと<br>ころで静かに授業を終え<br>る。 | 展開についてどうだったか。<br>父親の気持ちについて、参観しているお父<br>さんに語ってもらった。皆後ろを振り返り、<br>よく聞いていた。また、家庭の都合により、<br>担任が代筆して生徒に手紙を渡した（1名）。 |                        |

##### (イ) 保護者の評価

|                                                                                                                             |           |          |          |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|----------|----------|
| 1 「道德の授業」参観の日程は、この時期でいいですか。                                                                                                 | もっと早く（6月） | よい       | もっと遅く（月） |
| 2 今日の授業の「ねらい」はわかりやすかったですか。                                                                                                  | わかりやすかった  | 少しわかった   | わからなかった  |
| 3 道德の授業参観に生徒と保護者が話し合うような場面がほしいですか                                                                                           | ほしい       | どちらでも良い  | 必要ない     |
| 4 「道德だより」や道德の授業についてご家庭で話題になりますか。                                                                                            | 話題になる     | たまに話題になる | 話題にならない  |
| 5 「道德の授業」参観についてご感想・ご意見をお書きください。<br>3年の保護者ですが、息子のことを大切に思っていることを普段素直に言えないので、こういう手紙の形で伝えられてよかったで<br>す。息子がどのように受け取めたか、聞いてみたいです。 |           |          |          |

##### (ウ) 道德教育推進教師の評価

|                                            |                                                                 |
|--------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 1 「道德の授業」公開について保護者への連絡は十分だったか。             | 学校だより、学年だより、道德通信、PTA理事会で連絡した。                                   |
| 2 保護者や地域の方の手紙は、授業の中で生かされたか。                | とても深みがあり考えさせる終わり方だったと思う。                                        |
| 3 各学年の道德担当と協力し、実態にあった「ねらい」「資料」<br>を選定できたか。 | 各学年の道德担当と早くから相談できた。2年と3年の「ねらい」<br>が重なったが、2年を変える方向で翌年は考えるとよいと思う。 |
| 4 授業の展開の仕方に無理はなかったか。                       | 必ずしも保護者からの手紙を受け取れない場合があるので十分な<br>配慮が必要である。                      |

保護者の意見や考えを考慮すると来年度の「道徳の授業」公開はどのように実施すべきか。

- 5 理事会で働きかけてもらったせいかな参観者が多かった。もっと早い時期にという意見もあったが、3年生が卒業する時に書く「親への感謝の手紙」のことを考えるとこの時期に公開するのがよいようだ。保護者が授業に参加できる展開を考えたい。

# イ 主に家庭が中心となる取組の内容の評価

学校で実施した道徳教育が、保護者の理解を得て家庭の中で反映されたり、家庭での生活が学校の中で生かされたりしてこそ、生徒の健やかな心身の発達につながる。例えば、「規律ある態度」の取組を家庭で行ってもらい、「このようにやりました」というアンケートの結果を次の指導に生かす。また、毎週末「彩の国の道徳」『自分を見つめて』を家庭に持ち帰らせることにより、家族で資料について話し合う機会がもてるようにするなど、様々な取組への支援を充実させることが重要である。

家庭と直接連携して道徳の指導を行った場合には、指導後の生徒の様子、授業に関する授業者の評価や保護者の評価、道徳教育推進教師の評価などについて必要に応じ情報を提供し、連携体制の一層の構築と深化が図れるよう配慮することも重要である。

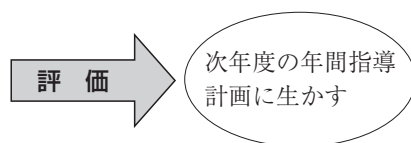
## (2) 地域社会との連携

### ア 主に学校が中心となる取組の評価

道徳教育推進教師や道徳部会は、校長の指導のもと、コーディネーターとして、学校応援団や地域の各団体、小学校などとの連携を進めるようにする。PTAや学校応援団等、学校教育と深くかかわっている団体は、学校と地域社会をつなぐ大きな役割を担っているため特に連携を密にし、地域ぐるみで生徒の道徳性をはぐくむことができるような工夫が必要である。

(地域社会、特に学校応援団を軸とした連携の取組の視点)

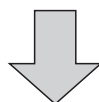
|   | 実 践 項 目                                                                                                                               | 実 施 | 計 画 中 | 計 画 無 |
|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----|-------|-------|
| 1 | 学校と学校応援団などの地域社会との相互交流を深める組織づくり                                                                                                        |     |       |       |
| 2 | 地域への広報活動(学校だより、PTA広報などを自治会を通じて配布、回覧してもらう。)                                                                                            |     |       |       |
| 3 | 地域人材活用に向けた学校応援団などの環境作り、計画の立案、調整                                                                                                       |     |       |       |
| 4 | 道徳性を育てるための地域の人々の体験活動の計画と事後アンケートの実施<br>・「地域の自然を知る会」から指導員を招いた学習会の実施<br>・地域の事業所での職場体験活動<br>・全校生徒での地域の清掃活動<br>・総合的な学習の時間や音楽の時間の地域のお囃子への取組 |     |       |       |
| 5 | 地域の行事への参加と事後アンケートの実施<br>・〇〇祭りのお囃子保存会と合同の演奏<br>・保育所での自作絵本の読み聞かせ                                                                        |     |       |       |



### ○ 外部指導者招致に関する評価の具体例

- 各学校で学校応援団の方々の協力を得て、地域の人材リスト「地域の人材活用一覧表」を作成する。年間の実践内容を蓄積することで積極的に活用できるようにしておく。

| 話 の 内 容                      | 職 業  | お名前  | 連 絡 先    | 協力いただいた授業の内容<br>項目、関連項目 |
|------------------------------|------|------|----------|-------------------------|
| 1 看護師として働いていたときの話。命の尊さ、奉仕の心等 | 元看護師 | 〇〇〇〇 | △△△-△△△△ | 3-(1)                   |
| 2 環境保全活動の話。自然のすばらしさ等。        | 酒屋経営 | 〇〇〇〇 | △△△-△△△△ | 3-(2)                   |



招き方の手順やリストを全職員に周知し、共通理解を図っておく



- ゲストティーチャーを招いた授業と招くことができなかった理由を記録しておく。(5月～3月)

| 時期 | 資料名           | ねらい         | ゲストティーチャー    | 話 の 内 容                           |
|----|---------------|-------------|--------------|-----------------------------------|
| 7月 | わたし、あなたそしてみんな | 4-(5)社会への奉仕 | 〇〇〇さん(学校応援団) | 阪神大震災の時本当につらかった。でも、みんなに助けられ励まされた。 |

### イ 地域主催の行事での活動における評価

自治会主催のクリーンアップ活動や子ども会への参加など、生徒が地域で活動した様子に関する情報が学校に伝わるような仕組みを作り、学校外での生徒の活動を評価できるようにすることも重要である。

## 第5 中学校生徒指導要録「行動の記録」の評価

### 1 基本的な考え方

「行動の記録」は、学校における望ましい人間形成にかかわる指導によって、生徒の行動や態度に現れた成果を評価するものであり、道徳的行為の評価である。「行動の記録」の評価項目は、道徳教育の指導内容と関連が深い。「基本的な生活習慣」「健康・体力の向上」「自主・自律」「責任感」「創意工夫」は、道徳の内容の1の視点、主として自分自身に関することにかかわっている。「思いやり・協力」は、2の視点の主として他の人とのかかわりに関することに、「生命尊重・自然愛護」は、3の視点の主として自然や崇高な物とのかかわりに関することに、「勤労・奉仕」「公正・公平」「公共心・公德心」は、4の視点の主として集団や社会とのかかわりに関することにかかわっている。

「行動の記録」は、道徳的行為の評価であるから、各教科、総合的な学習の時間、特別活動等における道徳教育の成果を評価することになる。また、行動の背景には、内面の形成が大きくかわることから、道徳的価値及びそれに基づいた人間としての生き方についての自覚を深め、道徳的実践力を育成する道徳の時間の指導の成果も問われることになる。

### 2 評価項目とその趣旨

| 評価項目      | 趣 旨                                                           |
|-----------|---------------------------------------------------------------|
| 基本的な生活習慣  | 自他の安全に努め、礼儀正しく節度を守り節制に心掛け調和のある生活をする。                          |
| 健康・体力の向上  | 活力ある生活を送るための心身の健康の保持増進と体力の向上に努めている。                           |
| 自主・自律     | 自分で考え、的確に判断し、自制心をもって自律的に行動するとともに、より高い目標の実現に向けて計画を立て根気強く努力する。  |
| 責任感       | 自分の役割を自覚して誠実にやり抜き、その結果に責任を負う。                                 |
| 創意工夫      | 探究的な態度をもち、進んで新しい考えや方法を見付け、自らの個性を生かした生活を工夫する。                  |
| 思いやり・協力   | だれに対しても思いやりと感謝の心をもち、自他を尊重し広い心で共に協力し、よりよく生きていこうとする。            |
| 生命尊重・自然愛護 | 自他の生命を尊重し、進んで自然を愛護する。                                         |
| 勤労・奉仕     | 勤労の尊さや意義を理解して望ましい職業観をもち、進んで仕事や奉仕活動をする。                        |
| 公正・公平     | 正と不正を見極め、誘惑に負けることなく公正な態度がとれ、差別や偏見をもつことなく公平に行動する。              |
| 公共心・公德心   | 規則を尊重し、公德を大切にすると共に、我が国の伝統と文化を大切に、国際的視野に立って公共のために役に立つことを進んで行う。 |

各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動やその他学校生活全体にわたって認められる生徒の行動について、各項目の趣旨に照らして十分満足できる状況にあると判断される場合には、○印を記入する。なお、各学校において、自らの教育目標に沿って項目を追加することができる。

それぞれの項目と趣旨を踏まえ、各学校の実情に合わせて評価規準を作成することによって、全教職員による客観性の高い評価を行うこともできる。教科担任制の中学校においては、多くの目で客観的な事実に基づいて、積極的によさを評価していくことが大切である。

（評価規準の例）

| 評価項目     | 見 取 る 観 点                                                                                                                                                                                                                                                                   | 評価規準（○印を記入）                      |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|
| 基本的な生活習慣 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に気を付けて登下校し、学校生活を送ることができる。</li> <li>・登下校、授業、活動の開始時刻を守ることができる。</li> <li>・脱いだ履き物のかかとをそろえることができる。</li> <li>・忘れ物をせず、整理整頓し、物を大切にすることができる。</li> <li>・時と場に応じた気持ちよいあいさつや返事をするすることができる。</li> <li>・時と場に応じた丁寧な言葉づかいややさしい言葉づかいができる。</li> </ul> | 80%できている項目が、5項目以上                |
| 健康・体力の向上 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗い、うがいをしている。</li> <li>・部活等で、積極的に心身を鍛えている。</li> <li>・ステップアッププログラムに取り組んでいる。</li> <li>・給食をバランスよく、適量食べることができる。</li> </ul>                                                                                                              | 80%できている項目と体育の評定4以上、合計5項目中、4項目以上 |
|          |                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                  |

### 3 評価の方法と留意点

#### (1) 評価の方法

「行動の記録」の評価は、生徒の学校での生活全体が評価の対象である。生徒一人一人の補助簿を利用し、気付いたことをその都度記入するなど、一人一人の具体的な行動を観察・記録できるような工夫が必要である。また、教科間、学年間で情報交換を行い「行動の記録」の評価を共有・蓄積しながら、生徒を励まし、成長を促すことが大切である。具体的には、観察・会話、作文やノートなどの記述、質問紙、面接、各種のテストなどを用いて生徒を評価する。「行動の記録」は、多様な方法を組み合わせ、継続的に、多面的に、全教職員で行い、生徒のよさを見取っていくものである。

ア 道徳の時間を活用して

道徳の時間においては、ねらいにかかわる生徒の道徳性についての実態把握を行っている。それを基に、授業における発言や書く活動によって、生徒の道徳性を高める指導を行う。授業における即時評価とともに、授業後に気になる点や伸びた点を毎時間積み重ねていくことによって、内面の一部を把握しながら「行動の記録」の評価を行う。

イ 各教科等を活用して

各教科等の、「評価規準」には、「行動の記録」にかかわる内容が含まれていることもある。学年内、他学年、専科教員等との情報交換を行い、「行動の記録」の評価を共有・蓄積していくことも必要である。又、総合的な学習の時間、学校行事、部活動等の体験活動では、特に「行動の記録」にかかわる内容を見取りやすい。随時評価するとともに、振り返り等で生徒自身に気付かせ、自覚させたり励ましたりしていくことが大切である。

(補助簿の例・担任が記録するとともに、全職員で「生徒のキラリ」を共有するようにしている)

| No.   | 生徒名                                         | 生徒の様子                                                                                                               |
|-------|---------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       | 〇〇 〇〇                                       | 9/10 道徳「心の涼風」で、自分が周りに流されがちであることを基に、「お前はよい記録を出しているからそんなことを言うんだ」と主人公の気持ちを語ることができた。振り返りでは「わかるけれどなかなかできない自分」のことを記述していた。 |
| 10/20 | 合唱祭に向けたパート練習で、パート長と一緒にみんなに声かけしていましたよ！意欲的です。 | 10/6 新人戦の電車の中で、静かにさせたり、お年寄りに席を譲ったりマナーのよさが光っていました。                                                                   |
|       |                                             | 全職員による、付箋や校内グループウェア掲示板を活用した「生徒のキラリ」を評価の蓄積にしていく。                                                                     |
|       |                                             | 12/14学級活動の2学期の振り返りで、「行事や部活の時に、自分で考え的確に判断することが増えてきた。」と発表した。行事等を通して自信をつけ、成長が見られるようになってきた。                             |

(カードを活用した例・全校で一人一人のカードを作成し、学期ごとに回覧して記入している)

| 教科等 | 基本的な生活習慣 | 健康・体力 | 自主・自律 | 責任感 | 創意工夫 | 思いやり・協力 | 生命尊重・自然愛護 | 勤労・奉仕 | 公正・公平 | 公共心・公德心 | 生徒氏名 (彩の国 道子) 2年1組8番               | 生徒会 (栽培委員会・長・副) | 部活 (剣道部・長・副) | 特記 (英検3級、剣道初段、郷土を描く美術展県知事賞) |
|-----|----------|-------|-------|-----|------|---------|-----------|-------|-------|---------|------------------------------------|-----------------|--------------|-----------------------------|
| 国   |          |       |       |     |      | ○       |           |       |       |         | ・「短歌の世界」の班学習で、班員をリードすることができた。      |                 |              |                             |
| 学活  |          |       |       | ○   |      |         |           |       |       |         | ・計画委員として、学活をスムーズに運営することができた。       |                 |              |                             |
| 生徒  |          |       |       | ○   |      |         |           | ○     |       | ○       | ・当番の水やり、雑草取り、植栽を進んで行っていた。          |                 |              |                             |
| 学行  |          |       |       | ○   |      |         |           |       |       |         | ・修学旅行実行委員として、しおりづくりをやり遂げた。         |                 |              |                             |
| 部   | ○        | ○     | ○     | ○   |      |         |           |       | ○     | ○       | ・副部長として、部長を助け、大会では乗り物のマナー等部員に指示した。 |                 |              | ・早朝練習を進んで行い、技術の向上を目指している。   |
| 他   | ○        |       |       |     |      |         |           |       |       |         | ・いつも気持ちよくあいさつをしてくれます。(養護教諭)        |                 |              |                             |

(2) 評価の留意点

ア 生徒との共感的理解を基盤として、生徒自身のよりよく生きようとする意欲や努力に目を向けるように努める。

イ 生徒理解の観点を固定せず、生徒のよさや個性を積極的に受け止め、多面的で幅広い視点に立った評価を心掛ける。

ウ 生徒一人一人の姿や変化を具体的に記述できるように努力し、個に目を向けた評価となるようにする。

エ 多様な方法を生かしながら評価し、可能な場合は複数の人の評価資料を得て評価できるようにする。

オ 生徒の一時期の様子だけで即断することなく、継続的に観察するなどして、長期的な視点に立った評価を心掛ける。

カ 評価の結果を生徒の個に応じた指導や学級全体の指導に生かすようにする。

基本的な考え方としては、よい点、あるいは進歩の状況を積極的に評価することである。「行動の記録」に示される評価項目について、生徒は、一人一人その特性はもっており、具体的な行動に表れる個性やよさを見いだす窓口となっている。それが、どのような形で現れているのかを観察し、十分に満足できる状況にあるかどうかを評価していく。これらの特性を自分のものとしてどの程度身に付けているかを評価し、評価を通して一人一人がもっているよさを見出すようにしていく。したがって、多く○印が付くよう、日常からの指導を充実させる必要がある。

また、最後の「所見」の欄において、生徒の行動の状況について、全体を通して総合的に評価すべき人柄や特性についての記述や、「行動の記録」欄における分析的な評価では捉えにくい長所などの記述を行う必要がある。

「行動の記録」の評価は、「結果」としての評価ではなく、一人一人の生徒の成長につながる「過程」としての評価である。一人一人のよさに着目した評価を心掛けることが大切である。